

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0193600053		
法人名	株式会社 二千翔		
事業所名	グループホーム ほたる		
所在地	苫小牧市拓勇西町4丁目19-8 (電話) 0144-57-5008		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年10月20日	評価確定日	平成21年12月2日

【情報提供票より】 (平成21年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 5 月 27 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤14人, 非常勤 2人, 常勤換算	15人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 17,000 円 水道光熱費(10~4月)23,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	2 名	要介護 2	6 名
要介護 3	5 名	要介護 4	3 名
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84.8 歳	最低 75 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	苫小牧日翔病院、吉田内科、なか歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成18年5月に開設し3年が経過したグループホームです。新興住宅街にあって道路を挟み大きな公園と隣接するコンビニエンスストアは、利用者にとって密接な生活環境の一部となります。ホーム内は清潔感と温かみのある家族的な雰囲気を有し、尊厳を基盤に温かみのある身体・生活介護を重視したチームケアの実践が行なわれています。食材委託業者の献立から利用者の希望を取り入れたホーム献立に切り替え、利用者は新聞のチラシを見ては主婦感覚に目覚め、人生を過ごすことへの支援に厚みが増しています。利用者が地域で暮らし続ける基盤作りが遅れていますが、温かみのある身体・生活介護は家族から信頼をいただいているホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の改善課題は9件です。特にホームの基本理念「入居者の社会参加と地域社会との共生」に関する項目の取り組みが遅れている状態です。全体として、改善課題に対する計画改善シートを用いた「計画~実践~評価」のサイクルを重視した組織的取り組みが不十分であります。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回同様で、2つのユニット共に、管理者・ユニット主任・介護職員の3名が担当し、同文の評価になっており、職員全員の思いや気づきが集約されたものにはなっていません。自己評価をホームの質の確保に積極的に活かす取り組みが期待されます。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>前回同様で、4名の家族代表・民生委員・行政担当者を構成メンバーとし、3ヵ月毎に開催しています。ホームの現状・活動状況・予定等について話し合っていますが、構成メンバーに柔軟性を持たせ、2ヵ月に1度以上は開催する等、運営推進会議をホームの質の向上に活かす取り組みが期待されます。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議には4名の家族代表が出席し、運営に関する意見交換等を行なっています。玄関には意見箱を設置し、関係書類にはホームと公的機関の相談窓口を明示しています。家族が意見や不満を気軽に話せるホームの雰囲気作りに努めています。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や買物時には地域住民とは挨拶を交わし、幼稚園や小学校との交流が行なわれ始めましたが、町内会には未加入で地域の方々との双方向的関係はなされていません。利用者が地域の一員として地域で暮らし続ける基盤作りが期待されます。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年5月開設時に基本理念を設定し、地域の中でその人らしく暮らせる地域密着型サービスとしての理念が作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時や毎週のミーティング時には、基本理念を中心に生活・身体介護について話し合わせ共有し実践に取り組んでいますが、地域密着型サービスの理念の掘り下げには至っていない状況です。	○	理念「利用者の社会参加と地域社会との共生」について、職員全員で話し合いを持ちイメージを膨らませ実践に結び付けることを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買物時には地域住民とは挨拶を交わし、幼稚園や小学校との交流が行なわれ始めましたが、町内会との双方向的な関係作りはなされていません。	○	町内会に加入し、利用者が地域社会の一人として地域で暮らし続ける基盤作りを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、主に管理者・ユニット主任・介護職員の3人で作成し、職員全員の思いや気づきなどが集約されたものにはなっていません。また、外部評価の結果は「改善計画～実践～評価」の取り組みを通し、サービスの質の確保に活かす体制には至っていません。	○	職員全員で評価のねらいや活用方法の理解を基に実地し、評価を活かす積極的な取り組みを期待します。

苫小牧市 グループホーム ほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4名の家族代表・民生委員・行政職員を構成メンバーに3ヵ月毎に開催し、ホームの現状・活動状況・予定等について話し合っています。会議の記録はミーティングで話し合われ質の向上に活かしています。	○	構成メンバーに柔軟性をもたすと共に、2ヵ月に1度以上は開催するなど、会議をサービスの質の向上に活かす一層の取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口には保険業務などで訪問しているが、サービスの質の向上に向けた連携・協働の取り組みには至っていません。	○	地域密着型サービスとして市担当者とホームのあり方や考え方・実態などを共有し、共にサービスの質の向上に取り組んでいくことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日の請求書や金銭出納帳の写しをレシートと共に、利用者の暮らしぶりの写真を満載したお便りと併せ送付しています。状態変化時には、その都度電話報告を行なっています。	○	「ほたる通信」の内容を充実させると共に、心身の状況については、状態変化時だけではなく、日常的にきめ細かく報告することを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には4名の家族代表が出席し、運営に関する意見交換等を行なっています。玄関には意見箱を設置し関係書類にはホームと公的機関の相談窓口を明示しています。家族が意見や不満を気軽に話せるホームの雰囲気作りに努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の離職による利用者の影響を最小限に抑えるため、日常的な話し合いや悩み相談を行なっています。やむを得ない離職の場合は、1ヵ月前に申し出てサービスの一貫性に配慮すると共に、チームでフォローしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	北海道グループホーム協議会が主催する研修会には、職員の立場や経験・熟練度に応じて学びの機会を多くしています。出席後は毎週のミーティングや勉強会で職員全員に伝達し、知識・技術の共有を図っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会や苫小牧市グループホーム連絡会等の研修会に参加していますが、地域の同業者ネットワーク作りを通じた交流や連携は行なわれていません。	○	地域の同業者とネットワーク作りを通して、日々のサービスや職員の育成に役立つ実践的な交流・連携を期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者には家族と利用者の同席来訪を繰り返し、ホームの生活や雰囲気慣れる機会を作っています。特に病院より入居の場面は、管理者が往訪を重ね入居意志の確認を行っています。いずれも家族の協力をいただいで安心して入居に至るように努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や食事の一連活動を始め季節の飾り物作りを利用者と一緒に行なうなど、共に過ごせる時間を多く取り入れ、支え合う関係を作っています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりを大切にし、会話や表情から汲み取り、確認を行ない把握しています。把握困難な場合は家族を始め関係者からの情報をもとに思いや意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎週のミーティングや担当者とケアマネージャーによるカンファレンスの中で、利用者や家族の希望を取り入れ利用者本位の介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎に見直し検討を行ない新しい介護計画を作成しています。状態変化にはケアマネージャーと担当者によるカンファレンスを行ない、現状に合った介護計画を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム入居前の住居や友人宅訪問を始め、病院受診・外食・買物・見舞の送迎など、柔軟に対応し自主サービスの支援を行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望により、協力医がかかりつけ医となり定期的に訪問診療を受けると共に、かかりつけ医の指示をいただいて訪問介護ステーションと連携し、健康管理を行なっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りに関する対応指針について利用者と家族に説明し、段階的にかかりつけ医・訪問看護ステーションが中心となり、家族との話し合いにより職員を含め方針を共有しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームの基本理念を基に利用者の尊厳あるケアを目指し、声掛けや対応に注意し、プライバシーを損ねないケアの実践に取り組んでいます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして基本となる1日の流れはありますが、起床・就寝・食事など利用者の思いや希望を優先し、一人ひとりのペースで生活ができるように柔軟に支援しています。		

苫小牧市 グループホーム ほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立作りから調理・後かたづけなど、一連の流れを一人ひとりの心身の状態に応じて声掛けし、職員と共に同じテーブルで楽しく食事ができています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	心身の状態や希望により、毎日入浴ができるよう一人ひとりに合った入浴支援を行なっています。体調によりシャワー浴・足浴も取り入れています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの自主性を尊重し、生活歴や希望・有する能力等を踏まえた場面作りを通して、出来るだけ家事や体操・飾り物作り等を一緒に行ない継続し楽しみや役割に繋がる支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や食材の買い出しのほか、見舞・友人宅訪問・買物など個別性の高い外出や外食を兼ねたドライブ・見学など、戸外に出る機会を多くして気分転換が図れる支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵の掛けないケアの大切さを理解し、玄関には鈴を下げ職員の見守りの中で自由な生活ができるように支援しています。不意の外出には運営推進委員を通して関係者に協力をお願いしています。		

苫小牧市 グループホーム ほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設長が防火管理者となり防災組織図を下に防災体制ができています。設備は定期的に点検を受け、スプリンクラーを設置し、消防署の指導をいただいて年2回昼夜を想定した火災避難訓練を実施しています。	○	地域性から考えられる様々な災害に対し、季節や昼夜を想定した防災訓練を警察・消防署・地域住民の協力をいただいて、年間を通じた実践的な訓練の取り組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリー計算された食材業者納入からホーム調達に切り替え、カロリー計算などについて市健康支援センターの指導をいただく予定です。食事・水分量は職員全員が共有し、ミキサー食・トロミ食など利用者の状態に応じて支援を行なっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット共ダイニングルームから廊下を挟んで居室と浴室・トイレ等の共用空間が使いやすく繋がり、全体がバリアフリーで利用者の安心・見守りを配慮した作りです。換気・空調・音の大きさ・光の強さ・温度湿度とも適切であり、装飾を通して季節感を採り入れ、居心地良く過ごせる共用空間です。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力をいただいて、長年使い慣れた家具や生活用品を持ち込み、壁には子供・孫などの思い出の写真を掲げ、利用者の思いを大切にした居室作りが行なわれています。		

※ は、重点項目。